

会 議 録

平成 24 年 8 月 5 日調製

審議会等名	平成 24 年度 第 1 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 24 年 7 月 17 日（火） 午後 2 時～4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	宮島泉委員長 捧礼子副委員長 小林修委員 平井幸子委員 後藤美智子委員 渡邊英美委員 本井晴信委員 米山文子委員 田村光子委員 小出和子委員 説明のための職員 金子生涯学習課長 石崎生涯学習課長補佐 長谷川文化振興係長 三巻主任 指定管理者 太向館長 本間副館長 菊埼業務責任者 佐藤副責任者 竹内副責任者 村山副責任者
協議題	(1) 平成 23 年度の図書館利用状況について (2) 平成 24 年度 4 月以降の利用状況について (3) 第 2 次三条市子ども読書活動推進計画進捗状況について (4) その他
生涯学習課長	あいさつ
宮島委員長	それでは協議題(1)平成 23 年度の図書館利用状況について説明をお願いしたい。
図書館長	(資料 No.1・2 に基づき説明)
田村委員	自動車文庫の行先にケアハウスサンホームがあるが、施設の方から依頼がきたのか。
竹内副責任者	「サンホーム」は直営期からの訪問先で経緯がわからないが、「いっぷく」には図書館から「こういうサービスがありますがいかがでしょうか」と声をかけた。また、「こころつくし」の場合は団体貸出を行っていたところ、「自動車文庫も利用したい」と声がかかった。
図書館長	高齢化の時代なので、高齢者施設への訪問を増やしたほうがいいのではないかと考え、図書館からかなり働きかけた時期があった。しかし「入所者が自動車まで出て行くのが難しい」という反応が意外に多く、意気込んだわりにあまり決まらなかったという経緯があった。その後は、ご希望があれば応えながら、少しずつ増えている。
田村委員	お年寄りのところに行って本を貸すのは大変だろうが、すごくいいことだと思うので、これからもやっていただきたい。
小出委員	お年寄りの施設に行く時は、いつも以上に大活字本をいっぱい持っていくといいと思う。普通の文庫本だと、私でさえ時々「これでは読めない」と思う。栄分館の大活字本は全部借りて父に読ませたし、本館も大活字本がけっこうあるから、高齢者の方には喜ばれるのではないかな。
図書館長	ちょっと重いという難点もあるので、よく選んで用意したい。
宮島委員長	ブックスタートのところに「対象者 733 名」と出ているが、昨年度出生した子ども

	さんの数か。
図書館長	昨年度、10 ヶ月健康相談を受けられた方の数である。
宮島委員長	毎年大体このような数字か。あまりにも少ないと思ったので。
生涯学習課長	22 年度の対象者は 821 人だったので、90 人ぐらい減っている。
宮島委員長	保育所の園長先生がご覧になって、この数はどうか。ちょっとショックな感じがする。ブックスタートをこのように手厚くしていただいているので、この子たちが 1 人残らずカードを作ってくれたとして、更新の 3 年後は保育所か幼稚園に上がる年。次の 3 年後は小学校に上がる年。どのお子さんもそうした節目節目にきちんと更新していただき、カードを持って図書館に来ていただきたいと思った。ブックスタートというのは、本当に最初の大事な事業だと思う。
図書館長	幸い 98%の方にお渡しできているので、その方々を 3 年後・6 年後もつなぎとめていくようにしたい。
宮島委員長	少ない子どもさんたちを大切に育てていていただきたい。
渡邊委員	出前サービスや学校等との連携が細かく書いてあるが、保育所に行くまでの 3 年ぐらい、お子さんは各地の公民館、栄地区であれば“すまいるランド”に行かれると思う。私の地元の大島は公民館に育児サークルがあり、入園前のお子さんとお母さんが月に 2 回ぐらい集まっていると思う。大島は図書館から遠いので、図書館に親しんでいただけるようそこへ出前をして、絵本の選び方とか「この絵本が今話題になっています」といった話ができる、若いお母さんたちも図書館に足を運んでいただけるようになるのではないかと思った。
図書館長	公民館によるが、「乳幼児の集まる機会に読み聞かせに来てほしい」と声がかかったことはあった。
渡邊委員	それは図書館からの声かけか。公民館側からか。
図書館長	公民館からお声をかけていただいた例が多い。
渡邊委員	本館がちょっと遠いので、乳幼児の時期だと足が向かないところがある。子ども向けではなくお母さんたちに向け、本を身近に感じていただくのがいいと思った。
宮島委員長	市に確認だが、「親子広場」というのは今もあるのか。
生涯学習課長	今はやっていない。すまいるランドに集約された。
宮島委員長	私も大島公民館に、サークルで 1 年に 1 回ぐらい、何年か続けて読み聞かせにお邪魔したことがある。きっと図書館のほうでも依頼があれば行かれる機会があったと思うが、確かに去年あたりから「親子広場」自体がなくなったと聞いた。すまいるランドに集約され、いろいろなサービスをしているので、「そちらのほうに」と案内しているのだと思う。
渡邊委員	地区によって残っているところはないのか。
生涯学習課長	すまいるランドができる前は、子育て支援課で公民館を借り、「親子広場」というのを確かにやっていたが、親子で遊べるきちんとしたところできたため、そこへ集約された。また、拠点拠点に「子育て支援センター」ができたので、それも一因となった。公民館の現状は把握していないが、今でもやっているとすれば、自主サークルで

	あろうか。
宮島委員長	その自主サークルに案内したり、各公民館にポスターを掲示していただくなりして、「図書館へどうぞ」と案内するのもいいのかもしれない。
図書館長	公民館との連携方法を検討したい。
宮島委員長	それでは、協議題(2)の説明をお願いしたい。
図書館長	(資料 No.3・4 に基づき、平成 24 年度 4 月以降の利用状況について説明)
本井委員	「図書館を使った調べる学習」への取り組みについて。ネットや電子辞書の類を駆使して調べれば、そこそこわかる時代である。その方がわかりやすい場合もあり、「それで何でいけないの?」という反論が必ず出てくる。むしろますます大きくなっていく気がするなかで、今なぜ「図書」にこだわらなければならないのか、という説明をどこかでしていなければならない。そういう反論に対する説明を、今から当然用意されているとは思いますが、意識して取り組む必要がある。特に中学生ぐらいになるとだんだん理屈っぽくなるから、そういう時に「こうなんだよ」と、こちらも信念を持って言えるようにしておかなければならないと思う。
図書館長	今回の対象は小学 4 年生で、幸いとても皆さん素直で、図書館スタッフの話をよく聞いてくれている。今はインターネット等で何でもわかってしまう時代だが、ではどれが「信頼できる情報」でどれが「不確かな情報」なのかというと、大人でさえ見極めが難しく、子どもたちにはなお難しい。それに対して本というものは、基本的に信頼できる内容だから本になっている、という性格があるので、そういう理由で「本を使うことを大事に考えよう」と説明している。今いただいたご意見も踏まえ、今後も念入りに進めていきたいと思う。
平井委員	説明を伺い、本当に意欲的な試みだと思った。「福祉」をテーマに体験活動を組むのは、福祉協議会でもやっている。「総合的な学習の時間」が始まった時、体験的な活動だとか調べ学習が一時すごく話題になったが、読書だけでなく「調べるために読む」という時に指導者側としてすごく困るのは、学年の発達段階に合った一番ふさわしい図書がすぐに見つからない、ということである。これが一番難しい。ネットを調べても多分そうだと思うが、情報はいっぱいあっても、どれが自分にぴったり合うものかはなかなか選べない、行き当たらないので、利用指導の時にはレファレンスサービスの部分が一番困る。図書館では「スクールパック」で、教科書の教材に合った使える本を複数リストにしてくれているが、ぜひこれを基に、もっと具体的な、「この資料だどこまで調べられる」とか「こういう時に役立つ」といった、実践を通した生の書き込みがあるリストがあるとすごくいいと思う。自分も「スクールパック」のリストを見て借りるが、実際に見るとぴったりこない、ということもある。できれば具体的な実践を行った後で、「こういう時にすごく役に立った」といったコメントがある情報を提供してもらえると、学校側としては一番ありがたい。
宮島委員長	小林委員さん、今のことについてどうか。
小林委員	本校の 4 年生が学習を受けるにあたっては、今平井委員さんもおっしゃられた通り、もともと「総合的な学習の時間の中」という位置づけでやっている。テーマが「福祉」なので、子どもたちにはちょっと大き過ぎるかなという意見もあったし、最初の授業

	<p>を私も館長さんと一緒に見て、「ちょっとこれでもつのかな」という感じもしたが、先週 4 時間目に入り徐々に進んでいて、ありがたいと思っている。今日も学校へ来ていただき、自分のテーマに沿って調べているということなのでうれしいが、今平井先生がおっしゃられたことも感じている。なぜかと言うと、本井先生もおっしゃられた通り、子どもたちの中には、「簡単にインターネットで調べればいい」という気持ちがやはりあると思う。最初の説明の中で、「裏を取る」とか「1冊だけではわからないんだよ」という表現があったが、「何冊か調べて、いいもの・自分に合ったものを見つけたいこうね」と話したりしている。モデル校の取り組みとしては、今 4 年生が一生懸命言われたとおりにやっているが、どこまでできるだろうかと考えている。秋には図書館との関係だけでなく、学区の中にある「うらだての里」との交流とか、福祉協議会の方たちとの車いす体験とか、目の不自由な人の体験マスクを着けてみるといったこともやっていく中で、調べたことがその子・その子の実になっていけばいいと思う。子どもたちの「どんなふうにやっていけばいいのか」に対応していくのが、今までは学級の担任だけだったものが、図書館の力を借りることでより選択肢が広がり、「調べる学習は楽しいな」となってくればいいと思っている。</p> <p>読み聞かせもそうだし、俳句をつくる授業とかいろいろなこと、今多くの方に学校へ関わってもらっている。担任だけ、学校だけでは本当に大変なことを補ってもらっている中で、今また新しい調べる学習の取り組みとして、協力とかではなくて全部助けてもらっている状態なのだが、学校現場がこれをやっていくとなると、打ち合わせなど、なかなか難しい。81 人の子どもたちの何人かは学習を進められたとしても、大半の子どもたちは担任と「これからどうやっていったらいいか」というように、なかなか厳しい状態になるのも確かである。モデルとしての「福祉」はいいのだが、カブトムシといったテーマだったら調べられる子もいると思うし、いろいろな子どもの興味に合ったものにしていければ、次年度へ向けてこの学習も深まっていくのかなと思っている。何かテーマを絞っていかないと、何をしたいかわからないということも確かにあるので、最初としてはありがたいことではあるが、今進んでいるのを見ながら、そんなことを感じている。</p>
宮島委員長	<p>手法を経験したことで、来年 5 年生、6 年生になった時、自分のテーマを見つけてどんどんやっていってもらえれば、楽しみなことだと思う。そうして広がっていくようになると思いながら聞いていた。この取り組みは、学校と一緒に 10 月ぐらいまでやって、その後発表の機会とかはあるのか。</p>
図書館長	<p>先ほどもご説明したように、秋以降の進め方については、今後また打ち合わせをしながら決めていくことになるが、やはり「校長賞」とか「図書館長賞」などを設けることになると思う。優秀な作品の表彰を中心に、皆さんのがんばりの成果を評価してあげるところまで、きちんと行いたいと思う。</p>
宮島委員長	<p>個々の子どもさんの作品についてはそうだが、全体の取り組みとしては、「調べる学習の実践研究」のような形にすれば、ほかの小学校でも「こんなにいい取り組みがあるのか」と、きっと興味を持てると思う。</p>
図書館長	<p>今年度はまず裏館小学校にお願いして始めさせていただいたが、もちろんその成果をほかの学校にもお知らせしていきたい。少しずつ広がっていき、ゆくゆく全校に参</p>

	加いただけるようになるのが、最終の目的である。
宮島委員長	5年前、図書館流通センターが指定管理者としてこちらに入られた時から、この「調べる学習」への取り組みということを私どももよく聞いていたが、ここにきて具体的に動いているんだと思う。
図書館長	時間をかけてしまったが、裏館小学校のご指導・ご協力のおかげでここまですることができ、本当に感謝している。
小林委員	私どもの学校はあと10日もすると、新しい校舎ができる。現校舎では、図書館とパソコンの入っている情報センターが全く違う階で別の教室になっているが、新しい校舎では同じフロアで、自由に行き来ができる状態になる。調べる学習については、活字・本で調べる子もいれば、パソコンで調べる子もいるので、同じフロアの中で行き来が自由にできる新しい学校をつくってもらった。この協議会も、次回また話し合いをするのもいいが、もしうちの学校に見学に来てもらえればありがたいと思っている。企画してもらえればいつでもお待ちしておりますので、お願いしたい。図書館だけは非常にゆとりをもってつくってもらい、2階フロアの一方全部を図書館にしてもらった。三条市でこれだけのものをつくったのかというような図書館になったと思っているので、ぜひ見ていただければありがたい。
捧副委員長	私も4年生の子どもがいて、ちょうど今「福祉」をテーマにやっており、体験なども親子で一緒にやる機会がある。子どもによってすごく興味に差があり、調べる学習を一生懸命やるのに「福祉」をテーマに選んだことは本当にタイムリーだったと思うが、先ほど先生がおっしゃったように、「カプトムシ」とかだったらもっと簡単にポンポンと学習ができたのではないかというもなるほどと思う。とても期待しているので、ぜひ経過を楽しみにしている。頑張ってもらいたい。
小林委員	図書館長をはじめ担当の皆さんが上手に子どもたちに話してくれて、「福祉」というテーマが真ん中にあり、子どもたちはそこから、次の振りや手助けによっていろいろな広がりをしていける。30ぐらいのいろいろなテーマや言葉を挙げ、「そこから選んで調べてみよう」とやっていた。担任1人ではなかなか思いつかない、指導できないところへ、図書館の皆さんが子どもたちに広がりを持たせてくれている。
捧副委員長	いろいろな体験をし、それが実際に頭の中で咀嚼され、ペーパーに載せられるというところまでいくのには、やはり一人ひとりの子に全部合わせるとなると、すごく大変なことだと思う。期待している。
宮島委員長	小学校と図書館との共同プロジェクトとして、推移を見守りたいと思う。今年度に入り、講演も含めて意欲的に進んでいるようだが、ほかにはどうか。
小出委員	熟年向きのを趣向を凝らしてやっていて、すごくいいと思うのだが、これからも予定はあるのか。何回かあるのか。
図書館長	同じテーマでというわけではないが、これから高齢者・中高年の方のご利用層がやはり増えていくわけなので、その皆さんに伝えていく事業が必要だと思っている。先ほども申し上げたように、「時間ができたけど図書館には行ったことがない。どうしよう」という方もたくさんいらっしゃるはずなので、今回は手始めに2つの催しをやったが、そういう方々に図書館をぜひ有効に使っていただくための事業を、今後もやっ

	ていきたい。
小出委員	ぜひよろしくお願ひしたい。
宮島委員長	先ほど報告いただいた、6月は土曜日だった「さんじょう親子読書の日」には、図書館の皆さん全員がエプロンを着けて臨まれ、私はその日「親子読書の日」だと気づかないまま図書館へ行ったのだが、来てみて「ああ、そうだったな」と思った。パッと見て、あのピンク色のエプロンがとても新鮮で明るく、「あ、何か楽しいことがありそう」という雰囲気が目から飛び込んできた。「とってもいいです」と、その場で思わずどなたかに言ったが、すごくいいことだと本当に思った。予備知識なしで、一般の人と同じ感覚で見たので、なおのことそうだった。一生懸命考えて、いろいろなことをやってくださっているなと思った。ぜひこの感じで積み重ねていっていただきたい。
図書館長	ありがとうございます。
三巻主任	(資料 No.5 に基づき、協議題(3)第2次三条市子ども読書活動推進計画の進捗状況について説明)
小出委員	単純な質問だが、比較が21年度と22年度なのは、意図があるのか。
三巻主任	策定の時点での最新の数字ということだったので、項目により数字が固まっていた部分と固まっていなかった部分があり、違ったところがある。
小出委員	22年度の数字がまだ出ていないから、21年度で比較したということか。
三巻主任	はい。
小出委員	わかった。何かを増やすためにそうしたと見えてしまうと思った。
後藤委員	1番の「児童図書蔵書数」というのは、図書館の人数に割り当てるとこのくらいになります、という意味か。
三巻主任	児童書の蔵書数を、三条市の12歳以下の人口で割って求めた数字である。
後藤委員	子どもが少なくなったということか。
生涯学習課長	分母が少なくなるとそうなるし、分母が同じであれば、蔵書が増えたということになる。「1人当たり何冊与えられるか」という数字である。
宮島委員長	一つの目安のようなもので、参考までにとということ。これがあまり極端に減っていると大変である。大体同レベルを維持しているのではないか。これを例えば全国的な数値と比較するのは、あまり意味がないことだろうか。
生涯学習課長	比較としてはそれも一つあると思うが、そのデータを私どもは持っていない。県の子ども読書計画に準じたものであれば比較対照できると思うが、これは違うと思う。
三巻主任	全国平均の数字はないのだが、策定時に近隣市町村にアンケートを取らせていただいた数字がある。1番の項目からいくと、三条市は当初8.5冊ということだったが、新潟市中央区の図書館は4.3、長岡市立中央図書館は7.05、柏崎市立は3.6、上越市立高田は9.1、糸魚川市民が14.6となっている。また、貸出冊数は、三条市は当初4.3だったが、新潟市は5.1、長岡市立中央が10.31、柏崎市が4.3、上越市が21、糸魚川市が8.6だった。
本井委員	随分差があるが、なぜだろう。
三巻主任	上越市の差が大きい。
長谷川文化振	上越には3館あり、その数字を足したもののようだ。3で割っていただくと7冊ぐ

興係長	らいになる。
三巻主任	貸出冊数については、それぞれの市町村の規模があるので、あまり参考にはできないと思う。あと、18歳以下の登録率だと、三条市は42.8%だったが、新潟市が24%、長岡市が29.24%、柏崎市が19.7%、上越市は出し方が違うかもしれないが51.6%、糸魚川市は40.2%である。
本井委員	上越でも、三条と同じくらいではないか。
三巻主任	近隣市町村に調査したところでは、そのような数字になっている。
宮島委員長	4番の、「図書館の絵本の貸出冊数」というのは、子どものカードで貸し出した冊数が、それとも純粋に絵本の貸出数か。大人が借りた数も入っているのか。
三巻主任	入っている。借りられた絵本の数である。
生涯学習課長	これを調査項目に挙げたのは、ブックスタートで絵本をおあげして、それが家庭で定着したかどうかを、この数字で見ようというものである。絵本をもらい、絵本を介して子育てをやっていく中で、絵本を読むことが家庭で定着すれば、絵本の貸出数も自ずと伸びていくだろうという意図である。
宮島委員長	純粋に子どもさんや親御さんのカードで借りたものなら、そのように見れるかなと思う。私どもはサークルの団体貸出で、1年間に相当な量の絵本を借りている。全部子どもさんのために使っているので悪い意味ではないのだが、もしそういう意味の数字を求めるのであれば、できれば団体貸出は除いてもらうとはっきりするかなと思う。
図書館長	図書館の統計は、基本的に個人利用なので、団体は除いてある。
宮島委員長	では、この絵本貸出数も、団体貸出の数字が除いてあるのならば、相当な量だ。
米山委員	<p>こういう資料も大変意味があると思うが、とにかく人口が減っているこの時代、評価の問題になってくると、単純に数が減ったからといって、なかなか比較ができにくい。この図書館のことだけでなく、いろいろな統計がすべて関わると思うが、やはり人口が減少していく時代において、単純にこうなっているからいいの、悪いのと言えることではないと思う。例えば先ほども、あえて数値目標を設けなかったという説明があったが、数字というのは案外怖くて、多くなればいいのか、減っていれば駄目なのかということではないと思う。</p> <p>去年、たまたま図書館に来ていて見たのだが、ある小学生の女の子がおどおどと本を返そうとしていた。すごく延長してしまっていたらしく、「これ、すごく前に借りたんですけど」と言って、おどおどしながら返していた。するとカウンターの女性が、「いいよ」と言って、すごく優しく引き取ってくれて、女の子はとてもほっとしたようにカウンターから離れていった。ああよかったな、あそこでしつこく「え？」とか言われれば、子どもなんかはそのことで、図書館にはもう来たくないと思うかもしれないから、大変よかったなと思った。ただ、その時に女性がもう一言、「ちゃんと返ってきてくれてありがとう。ほかに読みたい人もいるかもしれないから、次はなるべく早く返してね」と付け加えてくれると、なおよかったのかな、子どもに対する教育という意味ではいいのかな、と思ったりもした。多分どの図書館でも、返却されない本はかなりの数になるのだと思うが、公共施設である図書館をちゃんと使ってもらおうということも、やはり評価の目標というか、大事な観点なのかなと思った。単に「数字</p>

	が減っていたから駄目」ということではない。
宮島委員長	確かに「単純に数字では比較しない」という評価の仕方を取っているところはあると思う。私も策定委員だったので、今ごろこんなところで「あれ？」ということを書いて申しわけなく思っているが、でも、こういうことをその都度評価し直す、見直すということも含めて、進捗管理していくということはどうだろうか。
小林委員	7番の「おはなし会等の参加人数」が増えているという件に少し関わると思うが、私どもの小学校の3年生の子どもたちが、社会科の時間に図書館の学習をした。今日最初に館長さんから、1日平均866人が図書館を使っているという説明があったが、授業の中で3年生は、1週間の利用者数を教材にして学習した。少なくとも800人以上の人が毎日使っているし、多い日は1,000人ぐらいの人が使っているが、「どうしてそんなに多くの人が使っているのだろう」「本を借りたり返したりだけでは800人も1,000人も使わないのではないか」という声が出た。子どもたちは、先ほど話があった「おはなし会」とか、「ボランティアの方が本の手入れをしている」とか、「僕が行った時は2階の展示ホールで絵の展示をやっていた」「2階には学習室もあるんだよ、勉強しに来る子もいるよ」「1階には新聞が置いてあるよ」「雑誌が置いてあるよ」「毎日行くと、新聞を見ているだけの人もいるよ」など、いろいろな意見が出て、「図書館の活用方法って、本の貸し借りだけではないんだ」と学んだ。お母さんと一緒にイベントがあった時に来ている子もいたが、そのようにさまざまに活用しながら、「市立図書館は市民の幸せのために頑張っているいいところなんだ」と知った。私どもの前任者（倉品章氏）が、去年からここでおはなし会をしているが、そういう関わりのある人がいてくれると、子どもたちが本に親しめる。各学校に毎月「図書館でこういうイベントがあるよ」という知らせが伝わっていると思うが、私どもの調べる学習だけでなく、図書館のやっているさまざまな取り組みが、いろいろな面で学校現場や子どもたちに影響を与えていると思っている。
米山委員	子どもは、特に小さい子だと1人では図書館に来れないので、必ず親やおじいちゃん、おばあちゃんが付いてくる。だから、子どもを取り込むというのは、人を増やすよい方法だと思う。方法という言い方がよくないかもしれないが、子どもにはやはり親と一緒に付いてくる。親も図書館に親しむということがあるので、「子どもの読書活動」というのはそういう意味でも、力を入れていくべきことなのかという気がする。
宮島委員長	まだ始まったばかりの計画なので、来年度も、今年度の推移を、この図書館協議会で見守っていきたいと思う。
生涯学習課長 文化振興係長	（協議題（4）その他として、図書館正面駐車場の拡張予定、および古文書の複製・公開事業について報告）
本井委員	学習室の角に「新潟日報」や「毎日新聞」など新聞中心のマイクロフィルムのキャビネットがある。閲覧したい人は申請し、リーダーにかけて見るのだと思うが、マイクロフィルム自体永久的なベースではないので、ちょっと心配である。この会が始まる前にちょっと見せてもらったら、今のところまだひどい状態ではないのでゆとりがあるけれども、今後酸っぱい臭いがどんどんはびこってくる可能性が大きい。これは世界的な問題で止めようがなく、自然現象のようなもので宿命だ。その宿命を唯一抑

	<p>える、先送りする方法として、日頃頻繁にリーダーにかけているものはよいが、そうではないあまり閲覧されないフィルムはしまえばなしの状態になるので、意図的に、月に1遍でもさわやかな日に、空回しをしてほしい。閲覧があればそれに越したことはないが、そうして空気を通してやらないと中で湿気がこもり、その水分とフィルムの構成物質の一部が反応して、酢酸ができる。酸っぱい臭いがひどくならないうちに、どんどんそれを実行する必要がある。フィルムが最終的に酸化して駄目になるまで、永久に続けなければいけない。途中で手抜きをすると大変なことになる。お金の問題よりも、人体に影響を与えとか気分が悪くなるというように精神面に悪影響が出てくることがあり得るので、そうならないうちにデータ化してCDに落としてほしい。それしか方法はない。「新しいフィルムに移し替えたから安全」ではなく、フィルムである限り駄目で、CDにする以外方法はない。いずれそうしなければならない時が来るのではないかと思うので、今から留意いただきたい。</p>
図書館長	<p>まずは曝書をしたいと思う。</p>
本井委員	<p>市民の方などから、「古いものを整理していたら、江戸時代に使ったような和綴じの本が出てきた。捨てるに忍びないし、図書館なら何とか受け取って役に立ててくれるのではないか」と持ってこられる場合があると思うが、どうか。</p>
図書館長	<p>稀にだがあり、受け取っている。</p>
本井委員	<p>図書館が最後のよりどころなので、なるべく受け止めてもらえると嬉しい。何でもかんでもというわけにはいかないし、スペースの問題もあるので、そういう事情も無視できないが、ただ、受け入れたらしまえばなしにせず、「昔の人はこういうものから知識を得ていたんだ」「昔の人たちが勉強した姿をもう1回追体験的してみませんか」というように活用できる可能性は大きいし、『四書五経』のような漢学の基礎の本がたいてい出てくるので、そういう類は意図的に集めて紹介していくとよい。そういうものに実際に触れてみることも大事だと思う。100年・200年前のものに直に触れられるというのは、普段の生活の中には意外とないので、唯一のチャンスだ。見た目が悪かったり、触りたくないと思うようなものであっても、説明次第によっては十分な郷土の資料になるし、郷土を愛していくきっかけがそこからまた生まれる可能性も大きいと思う。寛容な気持ちで受け止めてもらえると嬉しい。</p>
図書館長	<p>よくわかりました。</p>
捧副委員長	<p>専門的な話のあとで恥ずかしい内容のお願いだが、図書館正面の以前からの駐車場と新しく借りた駐車場との間に、細い水路がある。あそこにぜひ、蓋か何かをしてほしい。一度タイヤが落ちたことがあった。</p>
生涯学習課長	<p>それについても予算を取りたかったのだが、もう少し待っていただきたい。機会を見てふさがせていただきたいと思う。</p>
図書館長	<p>表示をするなど、注意を促す工夫をしたい。</p>
宮島委員長	<p>駐車場が広がるのは大変いい知らせなので、うれしく思う。</p>
本井委員	<p>下田出身の書家だった横山蒼鳳さんが最近亡くなられたが、あのように普段創作活動をされている方々というのは、時々自分を振り返るために、また今後のステップにするために、図録だとか著書を出している方が多い。特に展覧会をやった時には図録</p>

	<p>や目録といった印刷物が意外に出ているはずだが、時系列で「この人を見たい」と思っても見られないことが多い。どこも系統立てて十分に集めているわけではなく、「いつの間にかそういうのが出てきたので、それだけ入れておしまい」ということが多い。今在住している人はともかく、せめてこの三条市出身の人の、ここ 20~30 年ぐらいの足跡を、郷土資料の一つの柱として集めていく。そうすることでもう一回見直していくというのも、ここの役目ではないかという気がする。蒼鳳さんのものもいだけばいいのではないか。まだ誰も声をかけていないと思う。</p>
宮島委員長	<p>いかがだろう、意見も出尽くしたところか。約 2 時間近く、大変濃い内容の協議会になったと思う。それでは、第 1 回図書館協議会をこれで終了したい。</p>